

農業に夢を抱く

愛知県立農業大学校
校長 島岡 勝隆 氏



教育随想

愛知県は、木曾川・矢作川・豊川の豊かな水に恵まれた土地であり、また、先人たちの努力などにより、全国第八位の農業産出額を誇る農業県です。

愛知県立農業大学校は、優れた農業後継者や農業の担い手を養成する、県内唯一の農業者研修教育施設です。昭和九年に「追進農場」として創設され、今年で九十一年目を迎えます。卒業生は九千名にも上り、歴史と伝統ある農業大学校です。全寮制の下、学生が農業の実践的技術を学ぶ教育部（学校教育法に基づく専修学校）と、社会人が農業の基礎を学んだり、農業者が経営発展を図るために学んだりする企画研修部の、二つの組織からなっています。三十七・五ヘクタールという広大な敷地に、学生のみならず社会人も農業を学びに来る賑やかな学校です。



毎週水曜日午後三時から三十分間、地域の皆さんに愛知農大を知っていただくこうと、学生が育てた農畜産物の直売を行っています。

昨今、世界的な食料情勢の変化や地球環境問題への対応など、日本の農業を取り巻く情勢が大きく変化しています。加えて、日本の農業者の高齢化と担い手不足は最大の課題となっています。

農業は、国の基本産業であり、生命を守り、生命を育てる大切な仕事です。そんな農業に魅力を見つけ、可能性を感じ、農業を通じて自分の

人生を切り拓こうと、夢をもって、毎年百人程度の学生が入学します。私は、ひた向きに農業実習に取り組む学生を信じ、学生には①ルールを守って行動する、②仲間を大切に、③農業実習に主体的に取り組む、の三つを心がけてもらい、「社会性」と「人間力」を身につけていって欲しいと願っています。

農業に夢を抱く学生の背中を押すことができるよう、職員一同頑張ります。

(しまおか まさたか)



令和7年6月1日

6月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
愛知県立農業大学校
校長 島岡 勝隆 氏
- この人に聞く…………… 2
生花店 四代目社長
柴田 兼久 氏
- 羅針盤…………… 2
竜美丘小学校
校長 岩瀬 竜弥
- ふれあい…………… 3
三島小学校
教諭 井上恵理奈
- 特集…………… 4
学校発!未来を育む緑のプロジェクト
～特色ある環境・緑化活動～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
手作り巣箱でお宿をプレゼント
(昭和55年)
- この本を…………… 8



花にこだわり、花を輝かせる

生花店 四代目社長

柴田 兼久 氏

明治二十五年創業の生花店。この二月に移転し、店舗・作業場に並ぶ色とりどりの花は、以前と変わらざるもの心の和ませる。花に関わる仕事に対する思いを、創業当時の様子とともに、柴田氏に伺った。

—この生花店は、どのようにして始まったのですか—

曾祖父が、元々自分の田畑で育てていた花を売るようになったのが始まりです。創業当時は、天秤棒を担いで蒲郡まで花を売りに行ったそうです。その後、碧南まで行って卸しを始めるようになりました。

今の店舗は羽根北町にあります。昭和三十年頃に柱町で店を構えたのが最初です。幼かった私の体が

すっぱり入るほどの大きい樽の中から、店でお客さんを待っていた記憶があります。

—仕事をやる上で大切にしてきたことはなんですか—

妥協をしないこと、見ることに、動くことです。花束を作るなら、贈る相手に届くときに最もきれいになるよう意識して作ります。自分の感性を大切に、納得のいく花束になるよう、花の選び方や組み方を試行錯誤し、こだわりのもって作ります。

花を扱う人の感性がよくないと花もよくならないので、日頃から花や人をよく見ます。配達に行ったときなどに、よい生け方を見ると、自分にもできるかどうか試してみます。

若い頃は、朝五時から遠くは浜松まで、三か所の市場や生花店を回りました。どの店でどの花を仕入れるとよいかを知り、自分の好きな花を手に入れるためです。今は仕入れの方法も変わってきましたが、とにかくよく動くようにしています。

—この仕事の大変さは、どんなところにあると思いますか—

花屋の数は年々減っています。同じ時期に花屋をしてきた仲間も、後継者がいなくて半数くらいがやめています。これは生花の需要が減っているからかもしれません。例えばこの辺りでは、仏花の半分くらいは造花になっています。暑くて腐ってしまうのが早いからです。

また、お客さんから注文があったときに、いつもきれいな花が店にあるようにしていますが、日が経つと花は古くなります。仕入れた花のうちの半分くらいは捨てることになることを頭に入れながら、新しい花をどんどん補充しています。できるだけ花を無駄にしないで、常にお客さんの要望に応えられるようにしておくことは、本当に大変です。

—これまでを振り返り、どんなことを思いますか—

若い頃、仲間と「花の会」をつくりました。岡崎の花屋全体の底上げのため、花束やブーケを作るコンテストの世界や日本のチャンピオンを招き、生ける様子を見て勉強し、技術を高め合いました。また、「誕生日用、予算三千円のアレンジ花束」などとお題を決め、花束をそれぞれのお店が作って持ち寄り、品評会もしました。

この生花店は、いずれ息子が跡を継ぎ、花屋は続いてきます。やはり私は花が好きです。これからも素敵な花に出会い、どんなよいものを作り、向上していく花屋でありたいと思います。



氏名 しばた かねひさ
生年月日 昭和三十年
四月三日
住所 岡崎市羽根北町



子供主体の学びに出会えて

竜美丘小学校

校長 岩瀬 竜弥

私は、母校である城南小、南中時代に、病弱で欠席が多かった。食も細く、食べ切るのに時間がかかり、給食の片付けは毎回自分で配膳室へ運んだ。また、落ち着きもなく、ドリル学習は、すぐ飽きてしまった。学校に行くことが苦痛だったことを今でも思い出す。しかし、

①城南小の開校年、「校歌を作ってもよいか」などの提案をしたこと。また、制作に携わったこと。

②南中の社会科の授業で行った「模擬裁判」で、資料収集や台本作成などの学習を夢中で行ったこと。

このそれぞれでやる気のスイッチが入り、授業の面白さ、学校の楽しさが感じられた。自分のよさや居場所までも、見つけることができた。この経験が「子供主体」という私の教育理念、授業研究の原点である。



すてきを見つける名人

三島小学校
教諭 井上恵理奈

「どうしてBさんは、みんなと同じようにしないの。」

一年生としての生活が始まり、学校生活に慣れてきた頃、Aさんは不満そうな顔で私にそう言った。Aさんはしっかり者で頑張り屋。正義感が強く、友達に意地悪をする子がいたら真っ先に注意し、私にもすぐに教えてくれた。

Aさんは、特にBさんの行動が気になるのか、

「Bさんが、私の言うことを聞いてくれません。」

と、毎日、休み時間になると怒った表情で教えに来る。かなりの不満がたまっている様子だったので、ゆっくり話を聞くことにした。

Aさんは、注意をしてもなかなか言うことを聞いてくれないBさんの

ことを、涙を流しながら私に話した。「そうだったんだね。でもね、先生はBさんのすてきなおところたくさん知っているよ。AさんならBさんのすてきなおところを、きつとたくさん見つけることができるよ。」と、声を掛けた。

最初は、すてきなおところが見つけれられるか、不安げなAさんだったが、次の日の休み時間、笑顔で私のところに駆け寄ってきた。

「先生、Bさんってね、日直で司会をするときの声が大きいんだよ。」

給食をたくさん食べるところ、たくさん手を挙げて発言するところ。

毎日、Bさんのすてきなおところをうれしそうに話すようになった。

それからは、Bさんだけでなく、他の友達のすてきなおところを見つけて教えてくれることも増えてきた。

ある日、休み時間の鬼ごっこで、Bさんがルール違反をした。そのことで、周りの友達からBさんは責められていた。私が仲裁に入り、Bさんに話をきいていると、Aさんが、

「みんながBさんに注意しなくてもいいじゃん。ルールを間違えたのはいけなかったけど、Bさんってね、

良いところもたくさんあるんだよ。」と鬼ごっこをしていたみんなにはつきりと言う姿があった。しばらくたった日の休み時間には、Bさんを連れて私のところに来て、

「先生、今日はね、Bさんがルール

を守って鬼ごっこができたんだよ。すごいよね。」

と、興奮しながら話してくれた。Aさんにほめられ、驚きながらも、うれしそうにしていたBさんに、「鬼ごっこ、上手にできてよかったね。」

と声を掛けると、AさんもBさんも顔を見合わせて喜んだ。

これまで、クラスには、友達の行動の一面を見て、自分の基準に当てはまらないと間違っている、直すべきだという雰囲気があった。しかし、鬼ごっここのときのAさんの姿をきっかけに、みんなが、友達を多面的に捉えようとする姿が広がってきた。お互いを認め合う、温かい雰囲気クラスに生まれた。

いつものように、Aさんが私に友達のすてきなおところを伝えるにやってきました。私は、

「Aさんのおかげで、みんなが友達のすてきなおところに目を向けるようになったよ。ありがとうね。」と伝えると、「私、すてき見つけの名人になった」と、声を弾ませた。



小学校三年生の社会科『市のうつりかわり』を参観した。今後、岡崎市の人口減少から様々な問題に直面すると感じた子供たち。資料を基に住み続けたくなる案を出し合い、議論を重ねた。例えば、市町の合併案では、賛成・反対で学級が真っ二つに割れた。「いいところが発信できる」「人口減少が止まる理由にはならない」と、まるで政治家のようだ。事前に市民の声をアンケートで集め、実態を知ること、子供たちは切実感をもって考えた。

四年生の算数科『面積』では、複合図形「L字型」の面積を工夫して求めたあと、発展的な課題としてタブレットを活用して個々に問題作りを進める。凸凹型や階段型など複雑な形を作成して面積を求める子もいる。また「直角三角形」を出題した子もクラスの注目を集めた。これは、五年生で学習する内容であったが、「同じ三角形をくると回してくつければ長方形になる」と説明すると、学級全体は拍手喝采であった。授業を楽しんだのは子供たちだけでなく、教師も同様である。

今、私が小中学生だったら、子供主体の学びに出会えてどれだけうれしかったことか。将来を考える子、ジャンプする子、これからの社会を支えるのは、この子たちだ。



▲花壇を手入れする様子（形埜小）

形埜小学校環境・緑化活動

令和5年度 全日本学校関係緑化コンクール 学校環境の部 準特選
 令和5・6年度 愛知県学校関係緑化コンクール 特選
 令和5・6年度 フラワーブラボーコンクール 愛知県大賞
 令和6年度 全国緑の少年団活動発表大会 みどりの奨励賞

●木の芽学習（生活・総合）

○環境に親しむ（低学年）
 学校周りの季節の自然探検



▲花壇で摘んだ花を用いて押し花

○環境にかかわる（中学年）
 ササユリの調査、育成

▲保育園児とささゆりの種まき
 （年長時にまいた種は7年で開花）

○環境にはたらきかける（高学年）
 花壇や森林学習・間伐材の活用



▲6年生による林道整備や間伐丸太を使った卒業制作

児童の感想

形埜小学校は、自然がいっぱい。
 この自然をいつまでも守りたい。
 まだまだ知らないこともたくさん
 あるから、みんなで工夫して学習
 したい。（緑化委員）

花や木を見ていると、気持ちが穏
 やかになり、落ち着きます。家でも
 学校で育てた苗をもらい育てて
 います。小さな花壇ですが、花を
 見ると、ほくも家族も笑顔になり
 ます。（6年児童）

▲児童中心に取り組み、保護者も
 協力して7カ月で花壇完成
 ※上記写真（花壇）の完成

○委員会活動

▲月曜集会クイズ大会
 花や木についてクイズ出題▲校内の木を知る、全校ツリー
 ラリー▲タブレットを使って校内の
 自然を撮影

○家庭との連携

▲学校で育てた苗を家庭に
 持ち帰り▲家庭で「マイ花壇」を作り、
 育成▲校内掲示で家庭の花壇を
 写真で紹介コーナー

「やった、やっと芽が出たよ。」
朝、ランドセルを背負ったまま
伝えに来る子供の顔は、笑顔だ。
環境・緑化活動は、市内どの小
中学校でも行われている。中でも
形埜小学校では、地域の豊かな自
然や人脈を生かした「木の芽学習」
を生活科や総合的な学習の時間の
柱に位置付け、取り組んでいる。
低学年は、校内や学校周辺の自
然と触れ合い、身近な環境に親し
む。中学年は、地域の花であるサ
サユリに関わり、学区の自然や人
との繋がりが強まる。高学年は、
創作劇で自然豊かな地域の良さを
発信したり、額田の森の未来を考
え、自分たちにできることを実践
したりする。その活動が認められ、
「みどりの奨励賞」（国土緑化推
進機構理事長賞）を受賞した。
各小中学校でも様々な環境・緑
化活動が行われている。創立記念
の植樹や花壇への苗植え、地元の
特産品を植える取り組みがある。
①②③ また、大切に育てなが
ら自然に関わり、実を収穫する学
校もある。④⑤⑥ 学びを深め
たり学んだことを生かしたり、植
物を通じて交流したりする活動も
行われている。⑦⑧⑨
自然に関わる時、人は清々し
い気持ちになる。環境・緑化活動
の充実、校内の自然環境だけで
なく、人の心も豊かにするのだ。

つくる・植える



▲法性寺ねぎを植える（六ツ美西部小）



▲学校の南斜面に作った、植栽文字（トキワヒガシ）の植樹（常磐東小）

▲屋上庭園への植花（翔南中）

育てる・収穫する



▲成熟したバナナの収穫（北中）

▲地元の農家さんと植えたイチゴの生育を観察する（矢作西小）

▲学区の方と一緒にブドウ収穫（恵田小）

親しむ・学ぶ



▲地域福祉センターへササユリ訪問
つぼみ状態のササユリの鉢を届け、
咲き終わったら引き取る（新香山中）

▲学校で咲いた花を生ける活動
生けた花は校内に飾る（広幡小）

▲樹木医さんによる樹木学習会
（城南小）



●令和七年度研究発表校

本年度の研究発表校は、市委嘱の研究発表校が三校である。

○市委嘱研究発表校

・岡崎市立城南小学校

(教科指導)

自ら学びに向かい、他者との関わりの中で、新たな価値を創造できる子の育成―学び方の選択と考えるの再構築を通して―

十月十五日(水)

・岡崎市立甲山中学校

(生徒指導)

子供たちのウェルビーイング実現にむけた教育の推進―子供の発達を支える生徒指導―

十月二十二日(水)

・岡崎市立大樹寺小学校

(教科指導)

「みんなが学びの主人公」と

なる全員参加型の授業の創造―一人一人の発想を生かすD-I学習を通して―

十月二十九日(水)

・愛知教育大学附属岡崎中学校

十月七日(火)

・愛知教育大学附属特別支援学校

十一月七日(金)

・愛知教育大学附属岡崎小学校

十一月十九日(水)

●表彰

◆第32回愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト

○中学生部門

金賞 竜海中

合唱部

●小中学校のようす

令和七年度岡崎市内の小中学校の概要(五月一日現在)である。

昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が十五名の減少、中学校が五名の減少となった。通常学級数は、小学校は二十三学級減、中学校は五学

級減である。特別支援学級数は、小学校が四学級増、中学校は六学級増となった。

岡崎市内の小学校の全児童数は、七二八名減少し、中学校の全生徒は、一〇八名減少した。総数では、八三六名の減少となった。

教員数は、二七七・五名(再任用ハーフは〇・五人としてカウント)の減少となった。市任期付教員は十四名、再任用教員は六十四名(実数)である。

教員補助者は二七一名である。そのうち十七名は、養護教諭支援員である。また、校務支援員は六十七名である。小学校英語指導補助者(ST)は二十七名、外国語指導助手(ALT)は、三十二名である。



●学年別児童数・生徒数(人)(令和七年度5月1日現在)

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,599	1,704	1,666	1,806	1,823	1,856	1,855	1,850	1,926
女	1,489	1,614	1,691	1,800	1,674	1,737	1,775	1,832	1,837
計	3,088	3,318	3,357	3,606	3,497	3,593	3,630	3,682	3,763

●学校・学級の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	435人	554人
通常学級数	717学級	311学級
特別支援学級数	205学級	74学級

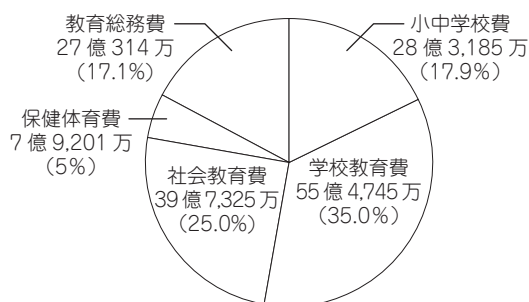
●児童・生徒・教職員数(人)(令和七年度5月1日現在)

区分	学校数	学級数 〈内特別支援〉	児童・生徒 (人)			校長・教頭・教諭(人) ※再任用教諭・臨時的任用講師(欠員補充)を含む 〈内市任期付〉	養護教諭・職員 (人)	事務職員 (人)	養護教諭 (人)
			男	女	計				
小学校	47	922 〈205〉	10,456	10,003	20,459	1,246.5 〈14〉	14	61	50
中学校	20	385 〈74〉	5,631	5,444	11,075	714	4	29	23
合計	67	1,307 〈279〉	16,087	15,447	31,534	1,960.5 〈14〉	18	90	73

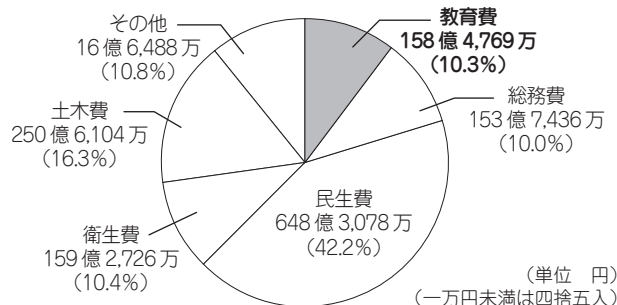
(再任用ハーフは0.5カウント)

令和7年度 岡崎市の教育予算

〈教育費の内訳〉 令和7年度 **158億4,769万**



〈一般会計予算〉 令和7年度 **1,536億9,000万**



◆ 令和7年度 主な新規・拡充事業

○全中学校及び全小学校（2～6年生）に加え、全小学校1年生の普通教室に電子黒板を整備

- ☆全市立中学校、小学校（2～6年生）に加え、小学校1年生の普通教室に電子黒板を整備
- ☆一人一台タブレット端末等と連携し、子供の学びを他とつなぐ「学びのインターフェイス」としての役割を果たし、すべての子供の学びを保障する教育の実現を目指す。

○少人数学級の継続実施

- ☆令和5年度は小学1年生において32人学級を設置。令和6年度は2年生で32人学級編成を実施。令和7年度は1・2年生での継続実施。
- ☆少人数学級の実現により、個別最適な学びの促進や、いじめや長期欠席などの課題の減少などの効果が期待できる。

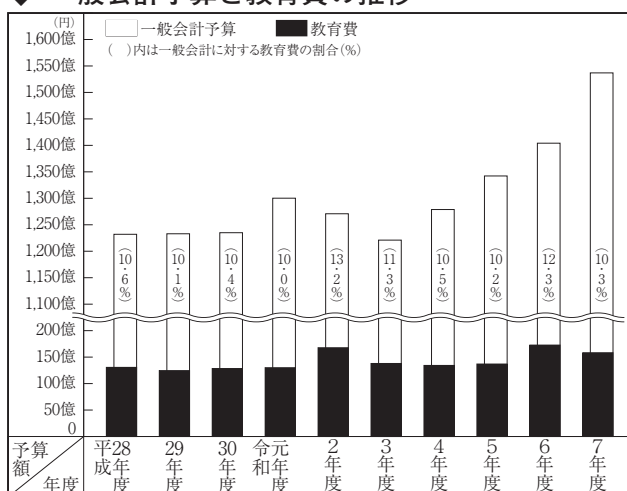
○校内フリースクールF組を市立小学校2校に設置

- ☆全市立中学校、小学校3校に加え、小学校2校に校内フリースクールF組を設置。
- ☆児童生徒の多様性への対応による長期欠席の未然防止
- ☆教室復帰だけでなく、社会的な自立を目指した支援の充実
- ☆校内フリースクール利用児童・生徒の自己肯定感や自尊感情の向上
- ☆個の学習状況に応じた支援の充実

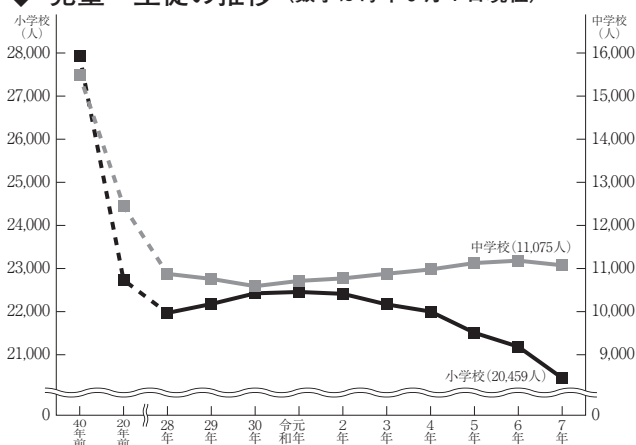
○夜間学S組を市立中学校5校に設置。

- ☆市立中学校5校に加え、中学校5校に夜間学級S組を設置。
- ☆他の生徒がいる時間帯には登校できない生徒、家から出ることが難しい生徒の長期欠席の自立支援
- ☆夜間学級を利用する生徒の自己肯定感や自尊感情の向上
- ☆校内フリースクール開設時間を拡大し、個の学習状況に応じた支援の充実（週1回2時間程度）

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移（数字は毎年5月1日現在）



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいこころのサポート相談 (SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan 
あいこころのサポート相談 (SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	

・カ
ッ
ト

六ツ美北中 三浦 祐揮

手作り巣箱でお宿をプレゼント (昭和55年)

写真提供：下山小学校

写真は、はしごを使って高い木に登り、児童たちが巣箱を取り付けている様子である。木の上での作業もお手のものである。

この活動は、学区を野鳥の楽園にしたいという思いから始まった。児童は、冬休み前に巣箱の作り方の資料をもらい、それを参考に家族と協力して巣箱を製作した。三学期初めに、持ち寄った巣箱を取り付けると、ヒヨドリやカケス、シジュウカラなど多くの野鳥が住みつくようになった。

最初に巣箱を作った児童は、祖父母世代となり、当時を思い出しながら現在の孫世代の児童に教えている。今後とも地域の良さを受け継ぐ活動を大切にしていきたい。



友達の新たな一面の発見。これまで見えていた景色が、教師の言葉をきっかけに変化する。そして、友達との新しい関係づくりが始まり、楽しい学校生活につながっていく。

その背景には、子供たちの個性や感情、友人関係の変化を深く理解し、温かく見守る教師の優しい声掛けと励ましが存在する。

と
ホ
ッ

水無月



▲市長杯激励会（額田中）

芳香に誘われて店内に入ると、色とりどりの鮮やかな花々と明るい笑顔に出迎えられた。「地域に密着して、お客様に喜んでもらえる花屋に」と語る五代目と、「夢は息子に託した」と目を細める四代目。

今年の二月に移転オープンしたばかりの新店舗にも、創業当時からの思いやこだわりは、しっかりと受け継がれている。

書が次第に並び、三日後、黄色いチューリップの花が開いた。変化を見つけた子供が報告にきたときの表情に、環境・緑化活動の教育的な意義を強く感じた。豊かな自然環境の中で生き物に触れることは、子供たちの心を豊かにする。少しでも多く自然に関われるよう環境・緑化活動を充実させたい。



* 授業は変えられる
東洋館出版社

嶋野 道弘他
¥2,180

心に残った一文

質の高い授業の世界は「天井知らず」です。

著者の一人である嶋野道弘氏は、文部科学省で主任視学官などを務めた人物である。その経験に基づき、授業をデザインすることや授業の構成要素について論じている。また、現役の教育課程調査官である齋藤博伸氏は、榛東村立榛東中学校の授業改革を例に、授業改革の在り方や教師の探究を提言している。

本書には、教師なら誰もが思い当たることが事例として具体的に示されている。経験の少ない教師はもちろんのこと、多くの経験を積んできた教師にとっても、真摯な気持ちで日々の授業や、これまでの実践を見つめ直すきっかけとなる1冊である。

* 自己をひらく 富山市立堀川小学校
明治図書 ¥2,460

* ルーツ・ブランディング 株式会社第一紙行
幻冬舎 ¥1,600

* 最新教育動向2025 教育の未来を研究する会
明治図書 ¥2,000

豊富小学校 加藤 環